

1. 学歴

2011年 3月 東京大学経済学部卒業

2013年 3月 東京大学大学院経済学研究科修士課程修了

2019年 6月 プリンストン大学経済学部博士課程修了, Ph.D. in Economics 取得

2. 職歴・研究歴

2019年 6月 - 一橋大学経済学研究科講師

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

基礎マクロ経済学

C. 講義およびゼミナールの指導方針

基礎マクロ経済学の講義においては、GDP の計測や決定、経済成長や景気循環など、マクロ経済学の基礎について概説する。マクロ経済学のミクロ的基礎づけについても学ぶ。講義では、マクロ経済学で学ぶ内容が現実の生活に重要な影響を与えることを実際のデータを見せながら示す。例えば、実際の生活に大きな影響を与える実質賃金が日本でどのように推移していったのか、経済成長やマクロ経済政策がどのように実質賃金に影響を与えるのかを示す。

4. 主な研究テーマ

異質的な経済主体を伴う数量的マクロモデルを用いて、人的資本と賃金格差の分析をおこなっている。大学中退者を増やすことなく効果的に大卒者数を増やすような新しい奨学金体系を考え、その奨学金体系がスキルプレミアムにどのように影響を与えるかを調べ、その研究は国際雑誌に刊行された。現在は社会的に最も望ましい学生ローンの構築とその大卒者数に与える影響や、奨学金や研究に対する補助金が大学で行われる研究の量と質にどのような効果を持つのかを調べる研究をおこなっている。

5. 研究活動

A. 業績

(b) 論文(査読つき論文には*)

"Progressive Taxation versus College Subsidies with College Dropout" *Mimeo*, 2019.

"College Education and Income Contingent Loans in Equilibrium: Theory and Quantitative Evaluation," (Karol Mazur との共著), *Mimeo*, 2020.

*"Optimal Timing of College Subsidies: Enrollment, Graduation, and the Skill Premium," *European Economic Review*, Vol.129, No.103549, 2020.

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

"Optimal Timing of College Subsidies: Enrollment, Graduation, and the Skill Premium," CIGS Conference on Macroeconomic Theory and Policy, 東京, 2019年5月27-28日。

"Optimal Timing of College Subsidies: Enrollment, Graduation, and the Skill Premium," Conference on the Frontier of Applied Economics and their Foundations, 一橋大学, 2019年7月17日。

"Optimal Timing of College Subsidies: Enrollment, Graduation, and the Skill Premium," Summer Workshop on Economic Theory, 2019年8月5日。

"College Education and Income Contingent Loans in Equilibrium: Theory and Quantitative Evaluation," 15th Annual Conference Warsaw International Economic Meeting, 2020年7月1-2日。

(b) 国内研究プロジェクト

科学研究費若手研究「大学の中退を考慮した賃金格差に対する最適政策」(研究代表者), 2020-2022年度。

6. 学内行政

(b) 学内委員会

入試管理委員会 (2019年12月 -)

7. 学外活動

(b) 所属学会および学術活動

日本経済学会

アメリカ経済学会

Econometric Society